

暑中お見舞  
申し上げます

# 石川保険医新聞

発行所  
石川県保険医協会  
金沢市尾張町1丁目9番11号  
〒920 尾張町レジデンス2F  
電話 (0762) 22-5373番  
発行人 後藤田博之  
印刷所 ユーアイ印刷  
(会費月額 3,800円)



## 紅提灯

### 宵待草の

### やるせなき

としお

写真  
俳句  
大和  
栗野  
利百  
雄代

#### 医心凡語

家を壊して古い家財道具が消え、残ったのが檜木製の金看板である。私がここで開業して今年で四十年経ち、それよりさらにさかのぼること五十年の先代の記念碑ということになる。表面には金文字で「〇〇一心堂」と医院名を彫り込んであり、当時としては精一杯さん新なピカピカ一枚看板であったとみえる。そのころの華やかさは消えて、今では金箔の一部剥落し、中から地塗りの漆黒がのぞいているのも何かしら遠い明治を忍ばせる。「一心」とあるのは多分「一心太助」の「一心」である。その「一心」の文字のごとく、患者の出入口と勝手口とは区別せず全く一つ口としたのとは一つにないが、こと奥様に関しては生涯何人かお取り替えになつたらしく、このやり方はこの人物の木質とは何ら背反する矛盾ではなく、いわゆるお妾なるものが存在しなかつたことでも心の純血が証明される。また、そのころの先端技術でもあったX線装置の導入では、開業医として当地方の先駆者でもあり、学究心に燃え、患者に接するに春風のごとく、腰も低く往診をいやがらず、辺幅を飾らず、直情径行、医を算術せず、貧者には篤く、いわば映画「赤ひげ」の金沢版とも呼ばましようか。

その跡目を継いだ私ですが、恥しながら昔の診療所は建て替えて今、出入口が二カ所になった。これは我が家の「白ひげ」物語りとも申し上げましようか。

# 第18回 保団連夏期学習会の報告

## 石川協会から4人参加 在宅医療など4つの分科会に出席



全国から350人が参加。  
7月9・10日 東京ダイヤモンドホテル

分科会は竹内常任幹事から基調提案として、保険医協会の歴史、教訓と今後の課題」のテーマで四十一人が参加して開かれました。分科会は竹内常任幹事から基調提案として、保険医協会と医師会との違いは、社会保障のこれまでの移り変わり、国民との協力共同についての歴史の変遷と現状、現状を守る立場を一つ進めて、待つ医療から出かける医療へ、ボランティアから定着へ、第一線医療の創造と実践、非核平和、民主主義を守る問題などについて。そして最後に保団連第二十六回総会の方針に従って運動しようとの提案がありました。



歯科の立場から、歯科・医科一体の活動をさらに充実させようとの提案がありました。つづいて行われた討論では、この日、助言者として出席した野村拓先生（大阪大学助教授）が、この日出された多くの発言に対するコメントを述べられました。特に多くの発言があった

長に十二年、保団連常任幹事に十一年間在任し、戦後保険医運動の歴史はある程度承知していましたが、これまで保団連、協会が発展したのは、先輩先生方のご努力の賜物ということ強く認識しました。

保団連の活動方針に対しては全面的に賛成出来ないところもありますが、私利、私欲を排して、各協会が会員のために活動するならば保団連の発展につながることに確信を得た学習会でした。

フロアーからは、各地の在宅医療についての実践例が発表されたが、特に、茨城県での国立病院、開業医、保健婦、ヘルパーなどの関係者が連絡会（地域医療カンファランス）を作っている在宅医療を進めている報告が注目を集めた。同様の協議会が富山県でも準備中とのことであった。

### 第6分科会

#### 戦後保険医療運動の歴史、教訓と今後の課題

第六分科会は「戦後保険医療運動の歴史、教訓と今後の課題」のテーマで四十一人が参加して開かれました。分科会は竹内常任幹事から基調提案として、保険医協会と医師会との違いは、社会保障のこれまでの移り変わり、国民との協力共同についての歴史の変遷と現状、現状を守る立場を一つ進めて、待つ医療から出かける医療へ、ボランティアから定着へ、第一線医療の創造と実践、非核平和、民主主義を守る問題などについて。そして最後に保団連第二十六回総会の方針に従って運動しようとの提案がありました。

### 第2分科会

#### 地域の医療・福祉 — 在宅ケアを中心に —

野々市町・内科喜多徹

### 第7回症例検討会

**ご案内**

- 協力病院●
- 社会保険 鳴和総合病院
- と き●
- 9月3日(土) PM 6:30~8:30
- ところ●
- 社会保険鳴和健康管理センター (鳴和総合病院向い)
- お申し込み●
- 参加申し込みはお電話にて保険医協会まで ☎ (0762) 22-5373

### 第4分科会

#### 「中間報告」の具体化に どう対処するか

金沢市・内科能登康夫

第四分科会(A)では「中間報告」の具体化にどう対処するか「診療報酬・支払高論」「民活導入論」「出来高払い弊害論」などの世論誘導策を数々打ち出していることが確認された。診療報酬については国民との信頼関係を強化しながら、

**囲碁(解答)**

黒1・3が手筋でコウになります。極く基本的な形ですから覚えて置かれると便利です。

# 訃報

全国保険医団体連合会会長

## 桐島正義氏急逝

慎しんで哀悼の意を表し、  
ご冥福をお祈り申し上げます。



7月15日逝去  
享年 75歳

### 第77回健康相談をルポ

## 一味違った質問で 医師と患者の壁なくなる



参加者、医師合わせて26人が参加。  
7月17日 押野農協2階和室

七月十七日(日)午後一時から、金沢市新保本同仁会(老人クラブ)と金沢市農協押野支所年金友の会の共催で、「健康なんでも相談」が開かれた。

単なる健康講座ではなく、診察室では忙しそうな医師を前に、気おくれして言にくい、聞きにくいといったことを、白衣を脱いだ医師と自由に語り合おうという目的で始められたこの「健康なんでも相談」は、今回で七十七回目を迎えた。今回の主催者は、毎年一回、この「健康なんでも相談」を定期開催しており、これまでの開催団体の中でも、健康づくりに関する熱意が特に高いとのこと。今回、取材班がルポルタージュを試みた。以下、当日の様子を字数制限一杯にご紹介したい。

正午、開催一時間を前に会場の玄関が開かれる。主催者である新保本同仁会の会長・堅田氏と数人の男性が暗幕を持って会場に入る。

この日、講師を引き受けられた金沢リハビリテーション病院整形外科の村山隆司先生がスライドを使われるため、暗幕と押しピンで窓をふさぐ作業が始められた。午後零時十五分、「健康なんでも相談」七つ道具(立て看板、カメラ、参加者配布用の健康のしおり、指示棒など)を携えて杉野事務局長が現われた。七月に入って休みなしという彼の姿に、少々疲れは見えるものの講師席の設営からスライド撮影準備など、実に手際良く会場づくりが行われた。

開催二十分前、司会役の井沢宏夫先生(諸江町・内科)、講師の村山先生が到着。進行の打ち合せが始まった。午後一時、参加者も次々に訪れ、約二十人が席に着いた。

その分野の勉強会もしたい」など、参加者の旺盛なる学習意欲に、両先生も圧倒されるような話題も飛び出した。診察室という医師と患者が一番近い距離に向かい合うところさえ、このような話題はおそらく出されることはなかったのではないかと。患者の必要以上の遠慮が原因なのか、医師がそういう話題を避けて通ってきたことが原因なのかはこの際、問題ではない。

## 持論

未来学者のアルビン・トフラー氏の著『第三の波』は、二十一世紀を迎えるころ、超産業社会とよばれる情報化を軸とした人間の複権を図る新しい社会の到来を提唱している。

エンド・外科・補綴・矯正・小児歯科・理学療法(レントゲン)といった、専門分化したそれぞれの狭い分野から患者の口腔を診るのではなく、医学の分野も含めて、患者の全人格的な、ト

一部分ではなく、進化の過程においての機能的な実存の証である。また、歯牙は各々の生物において系統的な変化を続けてきたと同時に、固体においても、誕生から死に至る道のりの中で

## これからの歯科医療に 求められる発想の転換

すなわち、口腔衛生思想の普及による患者の健康感の変化から、「健康社会」といわれる物の豊かさや利便性を追求した社会となり、「人間の健康」や「健康な暮らし」を目標とするような社会が予測されてくる。

こうした中で歯科医療も大きな変革を迫られ、ここに第三世代の歯科と呼ばれる New Age Dentistry が生まれてくるものと予想される。

歯科医学における、ペリオ・

1. タルな診方(みかた)、捕え方が歯科における最も大切な観点となり、歯科医療における第三世代の学問として、その重要性を増してゆくものと思われる。

常に変化を続けている。無歯顎で生まれた人間が、乳歯列、混合歯列、永久歯列、人口歯列を経て、無歯顎にまた戻って行く歯牙の変化(咀嚼機能としての咬合圧による影響)は、

顔面、頭部頭蓋に影響を与え、顔貌や全身的な姿勢まで変化する。このように歯牙を全身的・統合的な立場から、また生体学的に系統的な変化の流れの中で捉えてゆく考え方を Ecological Dentistry というが、こうした発想の転換を行っていくことは極めて重要なことであり、今後、我々歯科医師は、このような視点に立って患者の多様な健康観に基づくニーズに答えてゆく歯科医療の展望をもたなければならぬ。

また、「最近、病院は年寄り追い出しにかかってるんだ」と締め付けられていると聞くが、詳しく教えて欲しい」とか、「寝たきりになったときなど福祉制度はどどこまで我々老人の助けになるのか」など、いつもは「健康なんでも相談」と一味違った質問も出され

「ヨールと牛乳ではどちらが身体に良いか」といった、両先生を困らせるような質問も出て、実り多く、しかもなごやかな懇談が続けられた。

一部に患者が悪い(乱発診)、医者が悪い(乱診療)といった、マスコミを利用した低次元な論議が意図的に行われ、一層医師と患者の隔たりを大きくしている。しかし、医師、患者ともに理解を深め、医療について真摯に語り合うことが出来れば、医療を劣悪化している張本人の姿が簡単に露呈する。

また、「最近、病院は年寄り追い出しにかかってるんだ」と締め付けられていると聞くが、詳しく教えて欲しい」とか、「寝たきりになったときなど福祉制度はどどこまで我々老人の助けになるのか」など、いつもは「健康なんでも相談」と一味違った質問も出され

(保険医協会取材班)

### 第1回保団連出版部会の報告

## 「月刊保団連」を 読まれやすくするために

金沢市・内科 安藤良一 (保団連出版部員)



石川協会から安藤部員 (左から2人目) と杉野事務局員 (左) が参加。

七月三日、大阪で本年度第一回の保団連出版部会があり、当協会から私と杉野事務局員が出席しました。この会議は、ご存知の『月刊保団連』を自ら総括する集まりで年二回行われ、

編集委員、出版部員、事務局員によって構成されています。月刊の発行部数四万七千という機関誌ですから、出版部会もさぞにぎやかだろうと思っただけで参加したところ、わずか二十人の集まりでした。人数が少なくてもスタッフは優秀なら、それで良いでしょうが、関東、関西地区の七人の編集委員は良いとしても、出版部員は地方の五人しかおらず、その外に顧問二人と事務局モニター四人では、保団連の機関誌、しかも発行五周年を迎えるキャリアを今後支えて、会員の良い評価を勝ち得てゆくには、やはり荷が重すぎると思います。

これからの『月刊保団連』が、日本全国の開業医が明日の正しい医療の姿を考えるうえで、本当に読んで役立つ雑誌に育つてゆくには、さらに大幅な出版部員増、モニターの強化を計らねばならないことが痛感され、

が、医師が購入する医薬品、器材、給食費などには軒並み付加され、結局は医療経営者の負担になってしまふ。これは大変だ。でも消費税反対運動の人たちは一方では医師優遇税制? 反対を叫んでいる。しかし、ここは大局からみて、消費税に反対しながら合理的な業税制の改善に向けて努力するしかないという結論になりました。

「読まず」ためには、より優れた情報を簡潔に提供すること、タイトルにもっと具体的な目的表現を用いること。"親しまれる"ためには、専門欄と趣味欄をはっきり分割することです。次に顧問である大阪大学助教授、野村拓氏の主な提言は、日本の医療団体や医学教育の面も大きなテーマになること、世間に埋もれた優れた文化人の発掘も大切であること... などでした。

討論事項などは誌面の都合で詳細を報告出来ませんが、今回の会議は少人数ながら真摯で実り多いという印象でした。

一般消費税や医療税制改悪など、医療情勢は日増しに厳しさを増している。我々はこれからの医療がどう変化するかを予測しようとするとき、日本全体という広い視野の中で考えていくことが重要である。正しい理解こそが、正しい判断を決定するのであり、単なる厚生行政の動向だけを頼りに将来を予測するといふ愚かさは犯してはならない。厚生行政が先にあるのではなく、その基盤は我々医師、歯科医師がつくっていくかばならないという自覚が、より重要なのである。

「中間報告」にも見るように、国のあらゆる政策は長期に、しかも確実に、国民生活を脅かしている。しかも現在の医療政策は、すくなくとも十年前にもくろまれていたものである。「中間報告」を例とするならば、「中間報告」の一部についての議論に終るのでなく、「中間報告」全体が一体何をもくろんでいるのかを明確にし、その上での対応を図らねばならない。

今後、医療保険制度の一元化、さらなる受診抑制、診療報酬の改悪など、医療そのものが破壊されるのではないかと危惧すら感じられる現状である。

傍観するだけでは何ら解決はしない。医療を守るのは我々医師、歯科医師であるという自覚のもとで、ビジョンを掲げ、それを現実化するために、政府に訴え、働きかけていかねばならないと思う。

今回も協議事項は消費税(大型間接税)と五段階税制の改訂をめぐって熱き論議が続きました。不公平税制の代表として何故五段階特例措置がやり玉に挙げられるのだろう。毎年五月の長者番付の発表に医師の名前が多く連なるからでないか、企業所得と個人所得に分離した合理的な業税制に変えるべきではないか、そのために医師一人法人が妥当かどうか、それにしても大企業の税法上の

特別がどうして問題にならないのだろうか。消費税率は、国民が払う医療費には付加されない

### 第5回 理事会 点描

## 消費税に 熱き論議

7月19日、13人参加

消費税率は、国民が払う医療費には付加されない

討論されました。次に当日の資料に従って今年度の活動計画の概要を報告します。

総論的には、保団連の発行する開業医の総合雑誌として、また機関誌として、会員の権益と国民医療を守ることを基本に、これからの一層、誌面の充実を図り、親しまれ、読まれる雑誌づくりに努力する。

各論的には次のことを努力する。

- 一、診療研究面の充実。
- 一、文化・教養面の充実。
- 一、医科・歯科一体の誌面づくり。
- 一、会員の声を反映。
- 一、国民医療と福祉を守る保団連学派の基礎づくり。
- 一、出版部体制の強化。

以上。

午前中の学習会は、広告ジャーナリストの亀田克憲氏による「マスコミの現状と月刊保団連への感想」の講義で、現在のマスコミに関する概念を教わると共に、部外者からみた保団連とその

### 7月度 歯科部会 報告

## 江守道子先生 いよいよ渡米

歯科部員の江守道子先生(金沢市直江町で開業)が夫君の留学に伴い、家族揃ってアメリカに一年間滞在することになった。七月十七日の渡米を控えて慌ただしい中、十五日に彼女の壮

行会を兼ねて歯科部会を松任市内の二日市屋で開いた。話題は歯科部の八月以降の活動の具体化であり、歯科部員に魅力ある企画をどうのようにより上げていくかである。現在、確定してい

- 一、長野協会の「在宅歯科医療セミナー」への参加呼びかけ
- 二、(八月二十、二十一日、軽井沢)
- 三、第四回デンタルスタッフ講習会
- 三、七尾地区での歯科医科隣接医学懇談会
- 三、(九月十一日、金沢市)
- 三、七尾地区での歯科医科隣接医学懇談会
- 三、(九月十一日、金沢市)
- 三、七尾地区での歯科医科隣接医学懇談会
- 三、(九月十一日、金沢市)

このうち七尾地区での歯科医科隣接医学懇談会については、七尾、鹿島、羽咋の歯科会員の要望を聞いたうえで、具体化していくことにしている。

なお、この日はアメリカ滞在のため、診療所を代診の先生におまかせして、先月号「本日本休診欄」に述べられておりますので、ご一読をおすすめします。

グループ保険  
ご加入の皆様へ

☆今年度配当  
45.47%  
決定

10月中旬に指定口座に振込みいたします。

## これからの医療 傍観だけでは救えない

根上町・歯科 菊地皓一

でに十年前にもくろまれていたものである。「中間報告」を例とするならば、「中間報告」の一部についての議論に終るのでなく、「中間報告」全体が一体何をもくろんでいるのかを明確にし、その上での対応を図らねばならない。

# 保険医年金

## いよいよ九月一日から

### 今年度 募集開始!!

只今、予約  
受付中!!

◎お問い合わせ、お申し込みは協会まで。☎(0762)22-5373

## 経営対策講演会のご案内

●テーマ 税制改革と  
今後の病医院経営

講師 木村経営ブレイン  
木村光雄 税理士

●とき 八月二十七日(土)

午後六時半〜九時

●ところ 金沢都ホテル5F 「能登の間」

参加費 会員の医療機関 無料  
保険医協会会員外 五千円

※お申し込みはお電話で保険医協会まで

☎(0762)22-5373 三番まで

## 第7回老後問題を考える石川のつどい 開催案内

主催 老後問題を考える石川のつどい  
代表世話人 梶井幸代 (北陸婦人問題研究所所長)  
連絡先 石川県保険医協会 ☎(0762) 22-5373

テーマ どう根づかせるか 高齢者福祉  
—ヨーロッパと日本を比較して—

高齢化社会をよくする女性の会(樋口恵子代表)のメンバー三十五人がこのほどスウェーデン、西ドイツ、イギリスを訪問し、高齢者の住宅や各種の福祉施設を視察しました。この視察旅行に参加された梶井幸代さん並びに取材記者として同行された小林博さんからヨーロッパの高齢者福祉の現状を提供していただき、老いを支えるものは何か、日本の老人福祉の在り方を見直す機会にしたいと思えます。ぜひ皆様のご参加をお待ちしています。

とき 九月二十三日(祝) 午後一時〜午後四時

ところ 石川県社会福祉会館 4階ホール  
(金沢市本多町三丁目一〇〇 ☎0762-631418)

参加費 五〇〇円(資料代)

プログラム 受付 一二:三〇〜一三:〇〇

第一部 シンポジウム 一三:〇〇〜一四:三〇  
第二部 特別報告と討論 一四:三〇〜一六:〇〇

第一部 シンポジウム

テーマ どう根づかせるか 高齢者福祉  
—ヨーロッパと日本を比較して—

報告者 ジャーナリスト 小林 博氏

北陸婦人問題研究所所長 梶井幸代氏

司会者 金沢大学法学部教授 井上英夫氏

〈第二部〉特別報告と討論

- ①お年寄りの暮らしと生きがい
- ②老後の居住条件を考える
- ③老人医療の変遷について

患者さんにも  
ぜひ参加を  
おすすめ下さる

コピーして  
ご利用下さい。

## 1988年度 保険医協会

# ゴルフ大会

- とき 9月23日(祝) AM 8時6分スタート
- ところ 金沢ゴルフクラブ
- 参加費 3,000円 (プレー代は各自負担)

※お申し込みは 保険医協会まで ☎(0762) 22-5373



わが町の医療福祉を語る

医療福祉を語る

第17回

自然に恵まれた町 穴水町を訪ねて

保健課のみなさんにインタビュー



保健課のみなさん。左から、保健婦の保蔵さん、梶係長、上課長、看護婦の滝上さん、栄養士の西野さん。

今月は、能登半島のほぼ中央、穴水町をご紹介します。ここ穴水町は、能登と加賀を結ぶ古くからの交通の要地として栄えた町です。現在では、能登有料道路を軸とした道路網が各地に伸び、JR七尾線と、のと鉄道の分岐点にもなっています。取材には、上大学（かみだいがく）課長、梶正博係長、保健婦の保蔵円子さん、看護婦の滝上広子さん、栄養士の西野好美さんにご協力いただきました。

健康づくりは意識づくりから

人口約一万四千七十二人、催される「長谷部まつり」海と山の自然に恵まれた穴水町は、特別の観光施設を持たないながらも、武者行列、洋上舞台の狂言などが、県内外からの旅情を誘って

いる。年四回（一回に付き約一カ月間）、いさぎ、かき、栗、ボラといった四季折々の旬の味をテーマに開かれる「穴水まいもんまつり」は、ノボリのたった協賛店で料理の粋を味わえるという。海の幸、山の幸に恵まれた、まさに穴水ならではの催しである。また産業では、町の七〇%を占める山林が示すように、第一に林業があげられるが、ここでも町おこしのために条例を設けて企業誘致に力をそそぐなど、町ぐるみで奥能登の中核都市をめざしている。穴水町の保健事業における保健課の皆さんの役割分

担は、母子、老人は保健婦、食生活改善は栄養士、そして献血、結核、予防注射は看護婦がそれぞれ受け持たれている。しかし、保健婦が一人という点と、それぞれの分野が相互に関連するという点で、チームワークが不可欠なことであった。保健課の保健事業では、全員出勤となり、もちろん残業も全員でされるそうである。こうして穴水町では、県下でも珍しく総合健診を行っている。これは結核からあらゆるガンまでの健診を一人に対し、半日でやってしまう方法であり、合わせて日々の食生活および日常生活指導などの個別健康相談も実施している。上課長が「健診の目的は受診率を上げることよりも、未受診者を無くすることが大切」と力説されるとおり、健診前の予防教室や、運動会、婦人会における健康に関するPRなど、徹底した未受診者激減対策の展開に力を注がれている。総人口の二〇%を占める老人（内七十人が寝たきり）対策としての訪問指導には、専属の二人の在宅看護婦が、その専用車で老人宅を訪問している。寝たきり老人の対策としては、脳卒中の後遺症などのリハビリを穴水町健康管理センターで実施している。



配車になったばかりで、ピカピカの家庭訪問指導車。

また、ボケ・寝たきり予備軍といわれる一人暮らしなどの老人を対象に、宇加川集会所で、社会的リハビリとしてのレクリエーションや作業療法（県の作業療法士が年三回指導にあたる）などを行っている。穴水町には、医科開業医四件、歯科四件、そして穴水総合病院がある。保健事業における医師との連携について保健婦の保蔵さんは「医師の協力なしでは保健事業はありえませんが、その点こちらの先生方は公衆衛生の分野に理解が深く、私たちに協力してもらおうというより、むしろ私たちが指導されているくらいで、連携という点では進んでいるのではないでしようか」と話される。最後に、同町保健課のこれからの抱負を上課長にお聞きした。「我々が行う保健や福祉の活動は、ここまでという境界線がないので、目的をしっかりと持った活動が要求されます。実は私の場合、保健と国保の両方を担当しているものですから、少々自己矛盾があるんですよ。というのは、岩手県沢内村の例でも明らかのように、健診をしっかりと行い、早期受診を徹底すれば、財政的にはむしろ負担が一时的に多くなるんです。ですから、国保の立場から言えば頭の痛いことです。ですが、先にも言いましたように、健診率を高めるよりも、未受診者を無くし、自分の身体を自

受診率の向上より、未受診者激減に努力

上課長は言う。「健康づくりは保健婦、看護婦、つまり役場でするものではなく、個人がつくるもの、という意識を住民に理解してもらいたい。スタッフがいくらたくさんいても、お金をいくら使っても、住民の健康に対する意識の向上が無ければ、良い保健活動とは言えない」。

1988年度版 (改訂3版) 石川県病院マップ ~完成!~

さらに見やすく、使いやすいになった、開業医必携のガイドブック。

〔 近日中に全会員に無料で お送りします。 〕

初版 石川県福祉マップ

県内市町村の福祉制度を網羅。制度の解説とその利用法を詳しく解説した開業医必携の手引書。

10月下旬発刊予定 全会員に無料でお送りします。

分でコントロールすること。将来、保健、国保のどちらにも価値あることで、今後このような、実りある事業を進めていきたいと思っ

ちようど健診で忙しい時期にもかかわらず、大変親切に取材に応じていただいたことに、紙面の上から感謝の意を申し上げます。(保険医協会取材班)

# 医療福祉をささる人たち

16

## 高齢者情報相談センター

石川県社会福祉会館1階  
TEL (0762) 24-0123



高齢者情報相談センターを担当する  
金谷弘基(県社教高年福祉課長)氏。

### 民生委員らとの 連携も重視

今月は石川県社会福祉協議会(以下、県社協)に昨年七月から設けられている「高齢者情報相談センター」を訪れた。お話を伺ったのは同センターを担当されている金谷弘基さん(県社協高年福祉課長)である。

—まず高齢者情報相談センターの発足までの経過を教えてください。

相談センターは国の事業で、国と県で費用を折半しています。昨年一月に厚生省から打診があった時、全国で二十三府県が立候補したそうですが、まず石川と鹿児島が七月からスタートしました。その後、現在までに、十五県で実施されており、三年計画で全国に普及すると聞いています。

—なにしてこの相談センターは県社協として住民と直接コンタクトを持つ始めての事業ですか。

県社協と県の高齢者対策課で毎週会合を開き、万全の準備をしてきたつもりです。—石川県の相談センターの特色はどんなところにありますか。

今年から市町村単位で高齢者サービス調整チーム(福祉事務所、保健所など)、そして校下単位で地域福祉推進チーム(民生委員や老人福祉連絡員、老人保健ビクターなど)が発足していますが、私たちはこの「調整チーム」や「推進チーム」との連携、特に校下の民生委員や老人福祉連絡員などとの連絡を密にした相談活動をめざしています。実際にあったことですが、ある身体障害者の方から日常介護用品の利用について問い合わせがあった時、私たちは直ちに推進チームに連絡し、民生委員が訪問して対処したことがあり大変喜ばれました。これなどは推



自ら相談に応じることも。

進チームと連携した好例だと思います。—これまでどのような相談が多いですか。

私たちは月曜以外、毎日の福祉、年金、介護など曜日ごとに専門福祉相談を設けています。一番多いのは、法律相談ですね。しかも金銭に関わる相談が多いですね。昨年七月から今年の三月までに八百五十五件の相談があり、一日平均三・八件くらいであり、これは全国平均よりやや少ないようです。そのためセンターの案内チラシを十五万枚作成して、近く高齢者世帯に配布することにしています。

### 相談者の 「交通整理」も大切

—それでは、相談事業の中で、お困りのことはどのようなことですか。

それはセンターに多大な期待を持って相談されてくることです。例えば、特別養護老人ホームの待期間を短縮できないのか、とか福祉制度の利用について手続きまで出来るのかなど私たち県社協の権限外のことがあ

—医療相談ではどのような問合せが多いですか。

第一、第四土曜日に県医師会より先生にセンターに来ていただいています。先生方の専門性を生かせる健康に関する相談はあまりなく、診察してもらえないのか、とか主治医がいるがその診断や治療内容に関して質問する、専門医や入院先を紹介してほしいなど、実際にはこたえにくいものが多いです。ただ、胆石症の患者に金沢健康総合センターにある休日救急診療所を紹介して大変喜ばれたこともあります。休日救急診療所は意外と知られていないようです。

—それは電話相談にはプライバシーが守られるという不安があるからでしょうね。それにお役所は住民にとって敷居が高く感じられるからだと思いますか。

そうですね。ですから私たちはそのような場合でも出来るだけプライバシーを確保するように丁寧な説明をするようにしています。また、行政に回す場合でも担当窓口と電話番号まで必ず伝えることにしています。このよ

### 軽井沢セミナーのご案内

(主催 長野県保険医協会)

□□ テーマ 在宅歯科医療を考える □□

■第1日目  
8月20日(土) 午後6時～ 懇親会と歯科医療政策研究会  
「歯科医療の今後について」の講演と討論  
問題提起講演 松歯大教授 笠原 浩先生

■第2日目  
8月21日(日) 午前9時～昼食はさみ午後3時まで  
「在宅歯科医療を考える研究会」  
座長 林 春二先生(林歯科診療所・協会常任理事)

費用：フル日程(宿泊、懇親会、食事、資料代等込)  
2万～2万2千円程度  
21日のみ=食事コーヒ資料代等の各実費2～3千円程度

会場：軽井沢駅より徒歩10分「ホテル一萬里」(宿泊は25名まで可能…但しこの時期と費用の関係から相部屋になります)

参加申し込み・問い合わせ先  
☎0262-26-0086の長野県保険医協会へ



### 鶴彬句集

紹介者 登谷栄作(松任市・内科)

本書は昭和初期、反戦の立場で川柳に生命を燃焼させて天逝した、鶴彬の全句集であります。彼は石川県高松町に生れ、すい星の如く出現し、昭和初期の戦雲の危機をはらむ暗黒の時代に、川柳を通じていかなる官憲の弾圧にも屈せずその評論は鮮烈に反戦平和主義を絶叫しつ、二十九才を以て散華した彼の全句集であります。読者に必ず感動を与えずにはおかないでしょう。是非一読をおすすめします。

購入先 金沢市窪町七二二九二  
北斗書房 電話四七五八三五  
→直接申し込またい。



B 6版・168ページ  
編集者 岡田一と  
発行所 和川柳社  
定価 1,200円

# 池野嘉政

先生の巻

池野整形外科医院院長

羽咋郡志賀町字高浜町ソの9

# おねおね



開業してからは自分の時間が持たなくなったのが残念…と池野先生。

今月は羽咋郡志賀町字高浜で、十九床の有床診療所（整形外科）を開業されている池野嘉政先生にご登場頂きました。

## 患者さんの期待にやりがい

— 最初にお年をうかがってよろしいですか。

昭和十八年の三月ですから四十五歳になります。

— お生まれはこちらですか。

そうです。

— 先生は初代の開業ですか。

いえ、診療科は違いますが代々医者をやってきました。

— 先生がこの整形外科医院を開業されたのはいつですか。

昭和五十二年の十一月で

— お父さまのあとを継がれたわけですね。

そうです。しかし、いずれ帰ろうとは思ってはいませんが、自分としてはそんなに早く開業するつもりはなかったんです。大学も勤務も東京だったんですが、五十二年の春に父親が亡くなったので、取るものもとりあえず急遽ここで開業に踏み切ったというわけです。

— 医院を建てなおされたわけですから大変だったんじゃないですか。

たいへんでした。父親は内科の無床診療所をやっていたわけで、私は整形外科の有床ですから、形態がまるっきり違うんですよ。短い時間で、経験の少ないスタッフと一緒に手術・入院・看護などの体制をつくるのは苦労しましたね。

— 開業されたからと東京で勤務されていたところと、一番違った点というのは何ですか。出来れば開業されて良かったことと、悪かったことについてお話をください。

悪かったということではこれはもうはっきりと言えないんですが、自分の時間がなくなったということがあります。夜中でも起こされますし、二十四時間、医院に軟禁されているのと同じです。田舎で開業すればそういうこともあるだろうと、開業時に多少覚悟はしていましたが、最初はやはり夜中や休日に電話が入ると、ムツとすることもありました。しかし、治療が終わって患者さんの喜ぶ姿をみたときには、これが第一線を担うものの喜びといえますか、やりがいなんだなあ、と思えるんです。

— 先生のモットーをお聞かせ頂けますか。

そうですね、これといって毎日心がけていることなんてないんですが、しいて言えば、「井の中の蛙」にだけはなりたくないということでしょうか。とくにこういう田舎で開業してまいりますと、自分よがりになり、新しいことを吸収し、役立てようという向上心のようなものが無くなっていきそうで不安になることがあるんです。科学者という自覚があれば、常に自己の向上に努めるのが本当で、特に人の命を預かる医者が新しいことの吸収力を無くしたら致命的だと思うんです。ですから、医者に限らずほかの人たちとの交流が非常に大切なことと考えますし、石川県はもとより、

## 井の中の蛙にならないために

てきて、ムツとした自分を恥じることがしばしばでした。今では、身体がなれてきたと言いますか、時間の使い方がうまくなったのか、あまり気にならなくなりましたね。ですから開業して良かったところと言えば、患者さんから期待されているという充実感と、医院づくりが思い通りになるということ、それに、地域の人たちとの医療を媒体とした交流がもてるということですね。

— 先生は院内で毎週、何かテーマを見つけてはディスカッションしていらんだと思いますが、最近ではあまりやらなくなりました。朝礼のときには申し送りと一緒に、個々の患者さんについてしっかりと治療・看護の方法を話し合っていますか、最近うちのスタッフは特に私が話さなくても、私の顔色を見るだけで言いたいことが分かるようです。（笑い）

— 先生は院外での活躍をみると大変刺激になりますね。そういう意味では保険医協会の活動が、最近出版された『ありがとうございます』という本が、先生への期待と励みになるんじゃないかという点ではいかがでしょうか。

今のところ成り行きを傍観するほかに術が無いのですが、今後、医者にとっても患者さんにとっても医療はますます厳しくなると思います。私のところは有床診療所ですが、経営的にはやって行けなくなる危惧を十分に感じています。同じ整形外科では加賀市の池本先生や小松市の勝木先生のご活躍をずいぶん耳にするのですが、医院経営を含めて、地域医療の展開という点では、ずいぶん勉強されていると同時に行動力がすごいんですね。私自身はお二人の先生に十分刺激されて、今のままではいけない、という段階ですが、今、なにか行動を表わす時期に来たという焦りみたいなものが確かにありますね。

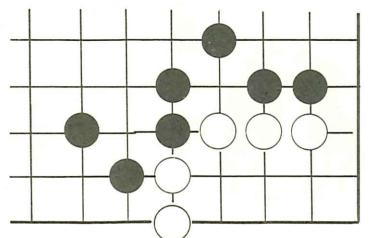
## 海まで5分 散歩が健康法

— 保険医協会や保険医新聞について、ひとことご感想をお願いします。

保険医新聞は毎月欠かさず読んでいますが、実に熱心に活動されていますね。特に保険についての資料や

## 碁

出題者 六段 向井 富治



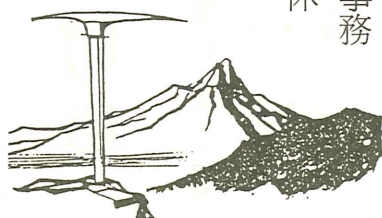
一石会で、北山元昭六段と福田学三段の対局に現れました。黒先でどうなりますか。

(解答は2面)

## 事務局お盆休みのご案内

お盆休みのため、事務局が左記のとおり、休務します。ご了承下さい。

〈休務期間〉  
八月十五日(月)から  
八月十七日(水)まで



説明会は役立っていますし、従業員対象の講習会も、大変いい内容だと思います。特に若い先生方が自由に発言し、交流を深めていってほしいという気持ちが羨ましいですね。

— 全県的な活動を重視し、地方の先生方との交流を深めていくことは、保険医協会の重点課題になっておりますので、今後、先生のお力もぜひ、お借りすることになると存じます。その節はよろしくお願致します。最後に趣味と健康法についてお聞かせください。

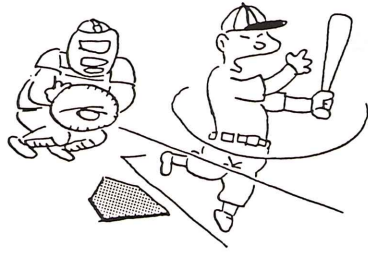
(保険医協会取材班)



# むし暑い 梅雨の一日

金沢市・内科 半田 詮

百七十九球の熱投も空しく桑田は百七十球目、ランスに一発を浴び力尽きた。七月九日土曜、G党の我輩にとって遅すぎた初東京ドーム。ビッグ・エッグ訪問である。試合開始直後にすべり込んだドームは一回表広島の攻撃中だった。グラウンドは緑の人工芝と土の茶色がカクテル光線に映えて美しい。梅雨というのに爽快だ。我輩ご満悦。試合は稀にみる熱のこもった投手戦で対一で終盤戦へクロウ・吉村がいよいよ、呂はケガでベンチ。G党にはじわじわと焦燥感が忍びよる。左中間席をみると「ソウル・五輪を成功させる会」によるキャンペーン、名付けて「ホドリ大作戦」。ソウル五輪のテーマソング「モイジャ・ソウル（集えソウルへ）」に合わせて虎の縫いぐるみを着て踊るホド



# 会員 投稿

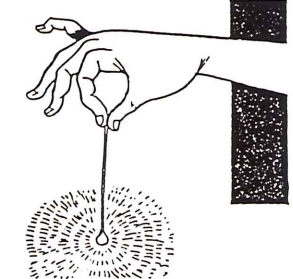
住宅へ土産を持って訪ねた。ちょうどその時、目の前の受話器のベルが鳴った。保険医協会事務局からだった。この電話によって、ほろ苦いドーム観戦記を書かされるはめになってしまった。「鴨が葱を…」とはこの日の阪神戦だ！ G党よ大いに燃えよう。

小学生時代の宿題に朝顔日記というのがあった。初夏にみんなで植えた小さな芽を持ち帰り夏休み中、その成育を日誌にまとめる、というふうなものだった。不器用な私に朝顔はうまく育ってくれない。夏休みも終りになると出入りのおじさんが、みごとに仕上がった朝顔の鉢を持って来てくれた。私は意気揚々とそれを持って登校する。大輪の立派な花は私一人であった。すっかりお見通しの先生に、「よく出来たね」と言われた時は顔が熱くなったものである。朝顔の浴衣を着た少女がいた。近所に住む友人の夏子ちゃんである。子煩悩だった私の亡父は私たち姉妹や夏子ちゃんたちを呼んで、緑日の線香花火やねずみ花火をよくやってくれた。マスコミ主催の大火火から、庭の隅での小花火まで

## 花火物語

中谷道子 (金沢市・整形外科 中谷欣二先生夫人)

しらに一発をくらった桑田投手の心境である。ビールとうちわを持って、夏空の星をみながら観戦した後楽園球場が懐かしい。さあ次は八月十四・十五日の阪神戦だ！ G党よ大いに燃えよう。



暑い夏が例年の如くまたやってくる。少年時代の夏と現在の夏では随分違って来たようだ。昔は能登一の宮に両親と共に住んでいた。夏になると毎日海へ泳ぎに行ったものである。子供のころは海水パンツなどはなかった。「キンカクシ」か「六尺フンドシ」である。一の宮の海には岩場があり、港があり、いつのころだったろう、多分小学校の一年生のころだと思いが、一度おぼれそうになったことがある。おぼれると言うことはひどいものだ。これで一巻の終りかと思つた。私が五年生のときに終戦を向かえ、その後二年ほどたったころ、港に砂がたまるので、沖合から石を持って来て砂防堤を造った。岩には、すぐに海草や貝がついた。天草、かき貝である。また、周囲には魚がたくさんいた。特にかき貝は美味であった。海でとって、その場で食べたし、家に持って帰り、ライスカレールの中にも入れた。中学生になり、自己流の泳ぎで四キロメートルほど

## 夏の今昔

羽咋市・外科 平野 政弘

今夜も近くで子供たちが興じる花火の音がいつまでも続いていた。花火の小さな物語である。

## 夏の吉野紀行

小松市・整形外科 勝 木 道 夫



ただひたすら「万葉の吉野」だけが目的である。中の千本をすつとばし、懐かしい稚児松地蔵を過ぎて、喜佐谷への小道を下り始めると、辺り四方、あくまでも静寂で、夏休みの最中というのに、人っ子一人見えず、ただ自分の足音だけがかすかに聞こえるだけである。毎日の病院での喧噪の世界とは何と異質な空間であろうか。昔見し 象の小川を 今見れば いやよ さやけく なりにけるかも (大伴旅人)



万葉に歌われている象の小川との最初の出合いは、十八歳の夏だった。あれから四十年近い歳月が流れ、その間には随分様々な喜怒哀楽を味わった。でも、その流転の中にもとぎれることもなく流れ続けた象の小川は、四十年前そのままに、清冽な姿をみせてくれた。み吉野の 象山の際の小末には こだもさわぐ 鳥の声かも (山部赤人)

# 会員投稿

## 大日岳に立山の影

金沢市・外科 高島 朔

冬のスキー行を含めると「そこに山があるから」で年に一カ月弱は山に入っている勘定になる。やはり、時には峰々を望遠できるこ

ともあるが、山懐に深く抱き込まれている感覚は例えようのない快感である。立山・剣あるいは白山へ登ると、最近でも半日は人に合わないことが少なくない。谷に響く落石や雪崩の音は無気味だが、自己の生存を証す音でもある。

本年五月三日に剣沢から大窓へ抜ける予定で、スキーにシールを貼って雷鳥沢を快調に登り出した。上部四分の一位から風雪となりスキーを肩にすると今にも飛ばされそうであった。吹雪は小屋の屋根を飛ばさんばかりに荒れたが、翌四日夜半になり、ようやく静かになった。一日中、トリンケンして九時には床に入った。覚醒して時計をみると十一時である。小用ついでに乾燥室に行ってみた。窓は一面に凍っていたが、息を吹きかけると暗い雲が見えた。良く見ると真黒な空が見えた。よし晴れるぞ！そばにあった紐でスキーエッジの錆を落として、やっ

と眠りにつけた。「晴れた！晴れてるぞ！」呼び覚まされたのは五時前である。寝不足である。ウツラウツラと本日のコースを考えていたが、結局六時には剣御前峰頂上より全方位の撮影をしていた。題は「大日岳に立山の影」、越中平野と能登半島が見えている。

カラジオは、わずか数時間前に滑降した雷鳥沢で「今朝六時ごろ、スキーヤーが滑落死亡した」と報じていた。



大日岳に立山の影。越中平野と能登半島も見える。



第二十三次南極越冬（一九八二—一九八三年）期間中に採取し、持ち帰った石。

## 南極の石に想う

公立鶴来総合病院 胃腸外科 小山 文 啓

北半球に夏が来れば南極は真冬、太陽のない季節です。

昭和基地では五月末に地平線に姿を消した太陽は八月半ばまで再び顔を見せません。この間、暗夜に乱舞するオーロラが若干の慰めにはなるものの、毎日の気温低下と閉鎖された生活環境から自ずと心身のストレスはうっ積し隊員同志間の軋轢は募るばかりです。

この季節、昭和基地はも

## 日本一の夫婦滝

小松市・耳鼻咽喉科 勝木 育夫

暇を見つけては滝を訪ねていますが、最近は何分減ってしまっています。何分あまり遠い所へは行けないので、北陸三県

が中心になるのですが、滝なんてものは車の通れる道に近い所にあるとは限りませんし、ようやくたどりついても大嵐滝や、石徹白の大滝のように、音はすれども姿の見えない滝もあり、小嵐滝のように水晶の柱のようだったのにダムで大部分水没してしまっただけです。

滝は生き物です。同じ滝

日本一の滝、夫婦滝。富山県東砺波郡城端町



鳴和の滝や富山県の朝日滝のように、有名な割りに行ってみてびっくりという場合もあります。あまり期待しないでいったら素晴らしい滝だったという場合の喜びは一入です。

県内でもまだ訪ねてない滝はたくさんあるのですが、落差三五〇メートル、水量も豊富で、有名な那智の滝の三倍近いという文字通り日本一の滝がすぐ近くの立山の麓にあるというのに、訪れる人が案外少ないのは残念です。